

# 令和6年度 大阪府立大冠高等学校 第3回 学校運営協議会（記録）

令和7年2月21日(金)15時

本校校長室（会議）

## 次第

### 1 配付資料の確認 等

#### ☆運営協議会委員

	お名前	ご所属	出欠
1	西村 孝彦	関西外国語大学 英語国際学部 教授	欠席
2	宮崎 義之	高槻市立 第十中学校 校長	出席
3	尾村 麻由美	コーチングラボ Coco Style 代表	欠席
4	深串 有里	高槻市民生児童委員	出席
5	土井原 美智子	大冠高等学校 冠友会 会長	出席
6	笹川 直美	大冠高等学校 PTA 会長	出席

### 2 第1部 報告 進行：教頭

#### 2-1 学校教育自己診断の結果について

生徒・保護者・教職員の集計データ および 分析より報告

#### 2-2 質疑応答

- 保護者の「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」問いに対する肯定回答「よく当てはまる」が6.5%と低いのが気になります。（生徒回答とのギャップ）
- 保護者と子どもとの家庭での会話が影響していると考えられます。中学に比べると日頃の会話が減っているのは多くなっているようです。関連して、保護者の生活規律に関しても、肯定的回答が低いですが、子に対して厳しくなっているのと、子が教えてくれないという両方の要因があるように感じられます。
- 教員の清掃に関する質問「本校では、清掃が行きとどいている」の肯定回答「よく当てはまる」6.3%と低く、生活環境で生徒が安定するので、影響が気になります。  
A：生徒数減、教員数減で清掃指導の割当てが十分にできていない状況です。

### 3 第2部 審議 進行：教頭

#### 3-1 令和6年度学校評価（案）について（校長より）

今年度の実施状況を踏まえ自己評価（案）の提示

#### 3-2 令和7年度学校経営計画（案）について（校長より）

中期目標については、令和7年から令和9年に向けての3カ年の計画  
令和6年度評価を踏まえ指標の見直し および 新規項目について説明

#### 3-3 質疑応答

- 生徒の地域貢献の肯定的回答73.0%は、活動内容からすると低めになっています。もっと高い数値になってもよいかと思われれます。  
A：取り組んだ部活動員や関わったクラス生徒のみが肯定的と捉えていることが 要因と考えます。

- 国際交流において英会話の活用がますます盛んになればと思われま

A：来年度はA Iによる問題作成ができる英語学習アプリ(Base In Osaka)が第1学年全員に導入されることになり、発話の指導を深めていきます。

令和6年度学校評価(案)、令和7年度学校経営計画(案)ともに承認

#### 4 第3部 協議 進行：会長

##### 4-1 協議委員から学校への提言

- 令和7年度は、不登校(30日以上)の生徒の縮減に向けて取組むとある。不登校対策の実践校によれば、学校に登校さえすれば、(先生方の関わりの中で)何とかなる、と聞く。交友の中で関係をうまく修復できず、不登校になるというのが今の状況です。生徒同士が怖い、教師が怖い等の要因がある中で、いかに学校に登校させるのかが大切とはいえ難しい課題ですね。

- 不登校の要因として、コミュニケーションをとるのが苦手であることが考えられるが、そのような中で、プレゼンを授業に取入れ、みんなの前で話す場を設ける等、将来の力になる指導が実践されています。今の時代を生きていく子どもの大変さが伺えます。

- 教員が生徒の伴走者となり、生徒の人間関係の回復に寄与するため、教員が生徒の人間関係の変化に敏感にキャッチすることが必要です。

A：スクールカウンセラーからの助言では、大冠高校の生徒は優しいから声をかける。かけられた生徒は、一人がいいのに、声をかけられるのが嫌という状況がありました。一方で、当事者の保護者の話では、『自分の高校時代は楽しかったのに、なんでうちの子は?』と話されます。

- コロナ禍が小・中学校であって、コミュニケーションの取り方にも変化があり、また、黙食・一方向を見ながらの生活等、人と接することが難しかったことで、コミュニケーションをとるにも、両者の間で、うまくキャッチボールができなくなったように感じます。投げかけても反応がない。自分の気持ちがうまく伝えられない。そして、ネット上では、文字だけが投稿され、(真意が伝わらない等)トラブルになりやすいです。

- 拗れたときの対応は、正解がないだけに難しいです。

- 生徒の状況を把握する・理解するが大切なポイントですね。また、自己肯定感を高める、社会に出て繋がりをもつこと等も大切ですが、高校生活での時間の難しさもあるかもしれません。

- 生活基本調査において「生徒手帳」の活用が学年進行で肯定回答が増えている中で、どのようにスケジュール管理をしていますか。

A：小さい生徒手帳ではなく、(A5サイズ)スケジュール帳になっており、進路スケジュールを書き込み把握する生徒が年々増えています。

- デジタルではなく、アナログの良さを感じます。引き続き続けてほしい。

- 防災意識について、災害発生時にどのようにするか、学校としていかがですか。

A：淀川決壊を想定し、垂直避難の訓練を実施しています。大阪北部地震の時は、地元の方々の避難場所として体育館を開放することになっており、当時は、生徒が素早く行動し、体育館フロアの(地震時に落ちた)塵の掃除をしてくれました。一方で、不審者対応マニュアルを昨年度に定め、教員間で情報共有し、対応について確認しています。

#### 5 諸連絡 等

##### 5-1 その他